

学生たちの感想(一部)

◎この度は私たちのためにカラーユニバーサルデザインについてのレクチャーをしてくださり、誠にありがとうございました。今までユニバーサルデザインについて学ぶ機会は多くあつたのですが、その中でもカラーについて詳しく勉強したことがなかつたため、とても有意義な時間となりました。私の周りにも色弱で悩んでいる人は少数ですが居て、「服の選び方が難しい」や「黒板が見えにくい」などとは言っていました。実際にどのような風に見えるのかは知る術がなかつたため、色のシミュレータやバリエーションツールなどを使用して体験できていい経験になりました。実際にバリエーションツールを使用して色紙を識別してみた時に、思った以上に赤と黒だったり緑と黄色だったり見分けることが難しいとわかりました。真っ赤な紙が黒やグレーにしか見えなかつたものは、知識として見分けにくいことは知っていたものの予想以上に分からなかつたです。

日本地図で地域ごとに色を分けるワークも、CUDにだけ配慮しすぎるとC型の人が見た時に微妙な配色になっていたり、逆に見栄えだけを気にしすぎるとP型、D型の人にとって見にくいものになってしまうと、いい塩梅を探すのがとても難しかつたです。CUDがどんな場面で配慮されているかと言われたら標識や駅の路線図などは思いついたものの、ぷよぷよやUNOなどのゲームやカレンダーのデザインにまで適用されているのは思いつかなかつたです。普段私たちが何気なく目にしているものでもしつかりCUDになっているものとそうでないものがあるのだなと思いました。どんなところでもっと考え方が浸透していくべきか、今回の課題を通して調査を重ね考えていきたいと思ひます。

今までは自分から見た配色のバランスで作品を制作していたものの、色弱の方の視点で考えると誰もが良いと思うデザインを作ることは難しいと感じました。だからこそ、CUDをしっかり勉強させていただいた今は配色についてより深くより様々な方に配慮したものを作ろうと思ひました。CUDの三原則である「見分けやすい配色」「色十色以外の情報併用」「状況により色名追加」ということを忘れずに課題に取り組みたいと思ひます。

◎今回のCUDに関するレクチャーは、今後の課題や自身にとっても非常に大切な知識だと感じました。まず、自身が色弱であり、診断や自身の認識として「赤緑色弱」という言葉とその特性を知っていました。経験としても、実際に色を見間違えたり、周りとの認識や色彩感覚が違っていたりといったことは多かつたため、色覚の違いやCUDについても理解があると感じていました。

しかし、今回のレクチャーを通して改めて知ることや、感覚ではなく理由を元に考えることがで

きました。例えば、人間の視細胞である錐体細胞の働きが L 錐体と M 錐体で似ているため赤色と緑色の 2 色が見分けづらいという理屈や、この赤色と緑色の違いの認識が難しい人が色覚の違いを持つ人々の大部分を占めること、その一方で少数ではあるものの、青色と黄色の違いの認識が難しい人がいることや、そもそも色の見え方のも個人差があり、一般の人や色覚に違いがある人同士でも違いがあることなど、様々なことが学びとなりました。また、色のシミュレータアプリやバリエーションツールを使うことで、自身の見え方とはさらに異なった色覚の違いを体感でき、自身以外の色覚の違いを持つ人の感覚を擬似的に体験できたことは、とても新鮮貴重な経験だと感じました。

以前、自身の色覚の違いをきっかけにインタビューを受けることがありました。その際に、今回のレクチャーほどの知識があれば、自身の経験を踏まえてさらに有意義な回答ができたと思いました。CUD を手がける側としても、色覚の違いを持つ側としても、深い知識と理解を持つことは大切だと感じました。

今回の CUD に関するレクチャーは、今回の課題だけではなく、今後の自身の生活にも大切なことであり、しっかりと理解を深めることでより良い CUD を制作したいと思いました。

◎私は、ユニバーサルデザインについては知っていましたが「カラーユニバーサルデザイン」には今回初めて触れました。今までも、色覚多様性の方が世の中にはいて、自分達とは色の見え方が異なるという認識はありましたが、それがどのように見えるのか、どんな色が見分けにくいのかなどは初めて知ることばかりでした。

実際に色のシミュレータやバリエーションツールなどを使って体験してみると話だけでは伝わりきらなかった CUD の大切さが分かりました。まず、色別に折り紙を分けた際、全く系統の違う色でも同じ色に見えてしまったり、同じ緑なのに違う色に見えたりなど、講義を聞いて頭では理解したつもりでも実際に自分の目で体験しないと分からなかったことだったのでとても参考になりました。また、日本地図を使った体験では CUD とデザインのバランスの難しさを感じました。まず、色覚多様性の方でも判別できる 5 色を見つけることが難しかったです。そしていくつか 5 色が見つかって一般型色覚の人がみるとデザインとして綺麗な 5 色ではない組み合わせがほとんどでした。私は、CUD を取り入れる上で 1 番意識しなければいけないのがこのバランスだと思いました。色覚多様性の方が判別できれば完璧なのではなく、一般型色覚の人が見ても綺麗な配色であって初めて CUD と呼べるのだと感じました。さらに、考慮すべきは色覚多様性の方だけではなくことも意識しなければならないと思いました。高齢者の方や小さい子供まで全ての方が平等に使えることも大事なのだと思いました。このデザインのターゲットは誰なのか、それを初めに考えて制作していきたいです。

この講義を通して私は、日常で見る商品や看板への考え方が変わりました。大手の企業で使われている国ゴやデザインはデザイン性に優れているだけでなく、CUD の考え方も取り入れられているように感じます。自分が制作に取り組む時も CUD の考えとデザインとしての配色、その 2 つ のバランスを意識しながら取り組んでいきたいです。

◎「カラーユニバーサルデザインとはどのようにデザインすれば良いのか？」レクチャーを受ける前、色のシミュレータというアプリで家の中を見てみた。こんなにも違うのかと驚いた。見続けた後、自分の目でいつもの景色を見ても、まだ目が疲れていたのか何か違和感を感じた。違うということは難しく、カラーユニバーサルデザインを学ぶことは難しそうだと思った。難しいからこそしっかり学びたいと思い、気合を入れて授業に臨んだ。特に印象に残ったことを3つ挙げたいと思う。

1つ目は、色のシミュレータは完璧ではないということだ。色弱の人の見える世界を完全再現しているわけではなく、このアプリは計算によって再現されたものである。あくまで、この色とこの色の区別がつきにくい、ということを示すためのものだそう。同じ色弱の方でも個人差があるものらしい。

2つ目は、色の見え方に優劣はないということだ。当然、色弱とは病気ではないということは知っていた。色覚異常という言葉が使われなくなり、色覚多様性という言葉に変わったことから明らかだ。色弱という言葉は、色に弱いという意味ではない。色による情報弱者という意味だ。色弱の方は、明度の差に敏感だそう。明度の違いを見分けることは、一般型色覚と言われるC型よりも得意である。それぞれに得意分野があるという考え方を知った。しかし、95%に合わせられた色づかいばかりというため困ることが多いということが問題だ。

3つ目は、ワークの難しさだ。色を5グループに分けようとしたが、3グループにしか分けられなかった。バリエーションと呼ばれる色の見分けづらさを感じるメガネを使った。外してみると、同じグループに薄い水色と濃いピンクがあった。薄い水色は好きだが、濃いピンクはあまり好きでないため驚いた。見分けられない感覚を改めて感じた。日本地図の色分けはさらに難しかった。見分けがつくようにアプリや資料を使いながら工夫した。やっとの思いでなんとか並べられた。しかし、C型の人にとって見分けられるものの、目がチカチカしていて好ましくない配色になってしまった。

カラーユニバーサルデザインは、誰もが使いやすい色のデザインだ。誰もが楽しめるデザインにしたい。自分にはない感覚を想像し、模索し続けることが大切だと感じた。

(トライデントデザイン専門学校より掲載許可を得ています)

2022/10/19 作成